

- 1 派遣期間 平成28年10月22日(土)
- 2 研修先 学校名(会場名) 東京都日野市立第三小学校
所在地 東京都日野市日野台2-1-1
<http://www.e-hino3.hino-ky.ed.jp/>

3 研修内容

第2回 国語授業のユニバーサルデザイン実践研究大会
全員のアクティブラーニングを支える国語授業力

(1) 公開授業参観

第6学年国語科

研究主題 国語科授業におけるユニバーサルデザイン
～全員参加の文学の授業づくり～

単元名 作品の世界をより深く読み味わおう
「やまなし」(光村図書六年)

研究主題について

授業をデザインする三つの要件

- ①授業を焦点化する(シンプル)
- ②授業を視覚化する(ビジュアル)
- ③授業を共有化する(シェア)

三つの要件をふまえて、指導を具現化する。

①焦点化

「主題」をとらえることに絞り込んだ指導

五月と十二月、二枚の幻灯それぞれの場面の中で、中心人物の変化を捉えることで見えてくる主題、それぞれの場面对比しながら読む中で見えてくる主題など、複数の視点から主題を捉えさせる。様々考えられる主題の中で、作品から最も強く感じることは何かを理由と合わせて考えることが、自分なりに主題を捉えることにつながる。

②視覚化

板書の工夫

五月と十二月の世界の対比関係が一目で分かるような板書やそれぞれの世界で「かわせみ」や「やまなし」の存在は、かへの兄弟の見方・考え方の変化と深くかかわっているということを視覚的に理解できるように板書する。また、表現上の特徴である色彩語にも注目し、色によっても十分にそれぞれの世界の印象が伝わるようにする。

③共有化

初発の感想で児童が捕らえた主題一覧を見ながら分類することによって、課題意識の共有化を図る。

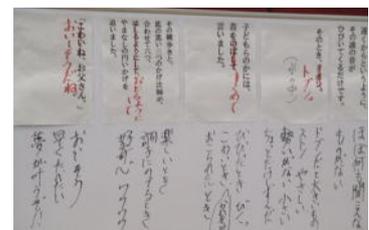
本時の指導

目標

センテンスカードの間違い探しを通して、十二月の場面における物語のきっかけであるやまなしの役割について、自分の考えを一文で書き表す。

展開

- ①センテンスカード中の語句の間違いをさがす。
- ②変化のきっかけとなったものを比較する。
「やまなし」と「かわせみ」の共通点と相違点を考えさせる。
- ③課題の答えを表現する。



センテンスカード
語句の間違いを赤で直し、その言葉から場面の状況を想像させていた。

第5学年国語科

- 研究主題 全員のアクティブラーニングを支える国語授業力
一他者との違い「ズレ」から始まるアクティブラーニングー
- 単元名 すぐれた表現に着目して、物語のみりょくを伝え合おう
「大造じいさんとガン」(光村図書5年)

研究主題について

アクティブラーニング「主体的・対話的で深い学び」

- ①学ぶことに興味をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」
- ②子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えさせること等を通じ、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」
- ③各教科等で習得した知識や考え方を活用し(見方・考え方を働かせ)、問いを見出して解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想・創造したりすることに向かう「深い学び」

「育成すべき資質・能力」

- ①生きて働く「知識・技能」の習得
- ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

アクティブラーニングを支える授業展開例

- ①他者(友達・教師・地域の人・教材など)の考えを知る。(ズレを生み出す学習材)
- ②他者と自分の考えとのズレを意識する。
「どういうことだろう」「なぜだろう」という疑問をもつ。(各個人のズレや疑問を共有する中で、仲間と話し合う課題を絞っていく)
- ③ズレや疑問を解消させるために、仲間と話し合う。
- ④話し合いを参考にして、自分の考えを新たにつくり出す。

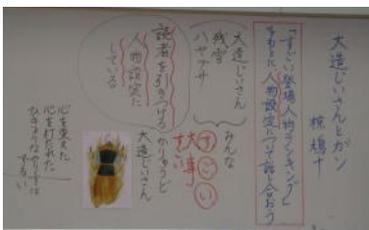
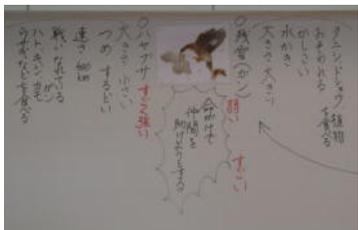
本時の指導

目標

提示された「登場人物ランキング」について話し合う活動を通して、大造じいさん、残雪、ハヤブサの人物設定をとらえ、自分なりの「登場人物ランキング」をつくることができる。

展開

- ①学習課題の確認をする。
- ②自分でランキングをつくる。
- ③教師が提示したランキングを見て、納得できるところと納得できないところを発表する。
- ④順位をつけたい根拠・理由に対する意見について話し合う。
- ⑤順位に対する意見について話し合い、理由もつけて自分なりのランキングをつくる。



大造じいさん、残雪、ハヤブサのすごいところについてそれぞれの考えを発表し話し合いを進めていた。

4 感想

今回の研修では、児童一人一人が生き生きと活動し、自分の考えについて友達と話し合ったり発表したりする姿が印象的であった。そのためには、児童が自分の意見を発表しやすい学級の雰囲気作りやペア活動、動作化等を取り入れてアクティブにならざる得ない状況作りが大切であると感じた。また、「やまなし」の授業では、学習課題を後半に提示し、前半はそれを考えるための学習になっていた。初めて見る学習スタイルだったのでとても興味深かった。この研修で学んだことを、これからの指導に生かせるようにしていきたい。